

# 1. 評価報告概要表

作成日平成 20年 4月 23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4073400295		
法人名	有限会社 笑苑		
事業所名	グループホーム 笑苑		
所在地 (電話番号)	太宰府市高雄 1丁目 3664番 258 (電話) 092-918-0808		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成20年4月10日	評価確定日	平成20年5月28日

## 【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 9月 3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.8人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または 1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	0 名	要介護 2	0 名
要介護 3	3 名	要介護 4	4 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 82.78 歳	最低 59 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中川医院、別府内科クリニック、筑紫野病院、原病院、ひらた脳神経外科、他
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同敷地内にデイサービスや宅老所、別法人のグループホームがあり、利用者が行き来しながら交流を図ることが出来る。また、グループホーム間では職員同士の情報交換も盛んで、良い所等の情報を聞き、お互い取り入れながらそれぞれ介護に活かしている。また、比較的重度な利用者が多いが、管理者が看護師であり、また医療機関との連携も密に取れている為、ターミナルケアの対応も充分可能なホームである。実際に何度もターミナルケアを経験し、実践を積んでいる職員達の介護のスキルはかなり高い。管理者を始め、職員と話していると、そういう部分での安心感がにじみでていることを肌で感じることが出来る。利用者も安心して毎日の生活を送っている様子を窺い知る事が出来た。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>前回の評価での改善点として、介護計画の作成方法と家族に対する計画の交付が挙がっていたが、その後、定期的にカンファレンスを開催するようにして、全職員で意見を出しながら介護計画を作成するようにしている。また、家族に対しても交付を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>カンファレンス時に全職員の意見を聞きながら、管理者が作成した。自己評価を作成する意味や、評価のねらいについて、管理者は伝えつつも良かったが、実際には職員はあまり理解できていなかった。再度、評価の意義や活かし方を判りやすく伝え、具体的に活用していく姿勢を示していくことを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 :外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催しており、地域の民生委員をはじめ、市や地域包括の職員にも参加してもらい、ホームの報告をはじめ、地域の情報交換の場としている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映 (関連項目 :外部8, 9)</p> <p>利用者をはじめ、その家族とも信頼関係は出来ており、意見等は遠慮なく何でも言い合える状況である。しかし直接言いにくいこともあると考え、ご意見箱等も設置して対応している。また、面会に来られる家族に対して、利用者の日々の状態がいつでもわかるように、毎日の様子を記入したものをファイリングして、各居室に置いている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目 :外部3)</p> <p>自治会や町内会に入会しており、夏祭りや敬老会等、地域の行事には積極的に参加している。そのことにより、地域の啓蒙活動にもつながっていると考えている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	地域の中に溶け込むことができるように、ホーム開所時には地域に向けて何度も説明会を開催し、住民の理解を得ることが出来た。その経験を経て理念を作り上げているため、思いは大変強い。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝30分程度のミーティングを開催しており、その中で管理者から職員に対して、理念の確認および実践についての話があり共有を図っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や町内会に入会しており、夏祭りや敬老会等、地域の行事には積極的に参加している。その事により、地域に対する啓蒙活動にもつながっていると考えている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、自己評価については、カンファレンス時に話をし、職員の意見をまとめた上で管理者が作成した。また前回の外部評価の改善事項についても、全員で話し合いながら、改善に向けて積極的に取り組んでおり、実際にはかなり改善している。	○	自己評価を作成する意味や、評価のねらいについて、管理者は伝えたつもりだったが、実際には職員はあまり理解できていなかった。再度、評価の意義や活かし方を判りやすく伝え、具体的に活用していく姿勢を示していくことを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、地域の民生委員をはじめ、市や地域包括の職員にも参加してもらい、ホームの報告をはじめ、地域の情報交換の場としている。		

グループホーム 笑苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所には年中出向いており、現場の実情等積極的に伝えたりしながら、情報交換を密に行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会での勉強会等に参加して、学ぶ機会は設けている。また、以前、実際に申請したことがあり、その時の流れについては職員にも逐一報告はしていたが、詳細について理解できているかどうかは疑問である。	○	管理者だけでなく、職員も定期的な勉強会の開催や研修会への参加をおこない、制度についての理解を深めてほしい。誰もが関係機関に対する橋渡しができる状態にしておくことが望まれる。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がいる利用者が少ないという現状があるが、面会に来られる家族に対しては、利用者日々の状態がいつでもわかるように、毎日の様子を記入したものをファイリングして、各居室に置いている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者をはじめ、その家族とも信頼関係は出来ており、意見等は遠慮なく何でも言い合える状況である。しかし、直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、ご意見箱等も設置して対応している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は原則行わないようにしているが、離職により担当を変更せざるを得ない場合には、引継ぎに充分時間をかけて（最低でも1ヶ月はかけている）、利用者へのダメージを最小限に留めることができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人の考え方や人間性を重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。また、適材適所で勤務できるように配慮しており、資格取得等は積極的に勧めるようにしている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育については、毎朝のミーティングで実践に基づいた形で話しをするようにしている。また、拘束については特に厳しく教育している。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内は掲示するようしており、参加を募るようにしている。職員は積極的に研修に参加している状況である。その内容については、レポート作成をはじめ、ミーティング時に報告するようになっている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会での交流をはじめ、他のホームを見学に行ったり、他から見学に来たりする機会も多く、同業者との交流の場は多い。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>併設のデイサービスの利用や体験入所等を取り入れながら、徐々に馴染めるように取り組んでいる。対応するのも、しばらくは管理者が主になって行うようにして、馴染みの関係作りを図っている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者を家族のような感覚で接している。時には利用者から元気づけてもらうこともあり、お互いに支えあう関係が築かれている。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>認知症が進んでいる利用者が多く、なかなか本人の思いや意向を聞きだすことが難しいが、普段の会話等から把握できるように努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回定期的にカンファレンスを開催しており、担当者が作成した原案を元に、全職員で意見を出し合った上で訂正したものを計画としているが、利用者や家族の意向が具体的に記載されていないものが多いと見られた。</p>	○	<p>実際には、利用者の意向については、普段の会話や言動から把握するように努めており、それに向けた介護を行っているようだが、文章としては見ることが出来なかった。文章として残すことで、家族等にもわかりやすく、見やすい計画になるのではないだろうか。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>少なくとも3ヶ月に1回は見直しを行うようになっているが、実際は重度な利用者が多いこともあり、年中変更が起きる。軽微な変更の場合は、連絡簿に記載すると同時にミーティングで話し合いを行い、即対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスや隣接したグループホームとの交流を積極的に行い、ホームの中だけに閉じこもりがちにならないように支援を行っている。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態を一番よく把握してもらっているので、全員、入所前からのかかりつけ医への受診を支援している。また状況によっては往診をしてもらうことも可能である。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの経験は豊富であり、事前に家族との関係も出来ているので、お互い報告や話し合いを重ねながら対応している。そのような関係が出来ているので、あえて明文化はしていない。	○	医療連携体制をとっている場合は、重度化した場合の対応に係る指針を定め、入居の際に利用者及びその家族に対して、指針の内容を説明し、同意を得ることが望ましい。これを機会に、文章として作成しておかれることが望まれる。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても事務所内の棚で、外から見えないような場所にて管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を聞きながら、その人その人のペースでやりたいこと、出来ることをやらせてもらうように働きかけを行っている。具体的に希望を言われないことも多いが、会話の中から利用者の心を汲み取ることができるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	どんなに時間がかかっても、自分で出来る部分はなるべく行ってもらうようにしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的に入浴日は月水金と決めてはいるが、必要性や利用者の希望にて、他の日でも対応している。また、時間帯についてもいつでも対応可能である。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション等積極的に行いながら、一人ひとりの力を活かせる場面を提供するようにしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出をおっくうがる利用者が多いが、言葉かけを工夫しながら、なるべく屋外に出る機会を作るように心がけている。実際に、外に出て行く行事は多く計画されている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口の目の前が階段になっているため、危険防止を第一に考え、扉にかんぬきをしている。またセンサーも付けて、万が一に備えている。抑制する方法もあるのだが、それだけは絶対に行わず、職員の気配りでカバーするようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。実施の際には近隣にもピラを配り、参加を促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や調理については、栄養士が対応しておりバランスのとれた食事が提供されている。また水分摂取については普段から気をつけて、なるべく水分を取ってもらえるように働きかけを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの部分でごろ寝が出来るようになっていたりリビングには季節の花を飾ったりしておりまた、ダンスやテーブル、装飾品も一般の家庭にあるようなものが揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態や希望に応じて、ベッドを利用したり布団を敷いたり等、自由に選択できるようにしている。また、本人や家族と相談しながら、出来るだけ馴染みの品を持ってきてもらうようにしている。		